



目次

- I 概況
 - 1. 沿革
 - 2. トピックス
 - 3. 事業所一覧
- II 基本方針
 - 1. 組織・会議
 - 2. 職員状況
- III 運営報告
 - 1. 事業部全体
 - 2. 各事業所
- IV 地域貢献活動
- V 教育研修
- VI 令和4年度 事業計画

I 概況

1. 沿革

昭和 56 年 5 月(1981)	精神障害回復者社会復帰施設「はまゆう寮」開所
平成 5 年 6 月(1993)	沼津中央病院精神障害者共同住居「カーサかぬき」開所（家族会運営）
平成 9 年 4 月(1997)	グループホーム「ふじみ」開所
平成 14 年 2 月(2002)	田方・ゆめワーク開所（通所授産施設、地域活動支援センター）
平成 14 年 4 月(2002)	「コーポ狩野」福祉ホーム B 認可
平成 15 年 4 月(2003)	地域生活支援センター「なかせ」開所 地域生活支援センター「いとう」開所
平成 16 年 4 月(2004)	サポートセンター「ほっと」開所 グループホーム「ふじみⅡ」開所
平成 17 年 10 月(2005)	「カーサかぬき」から法人運営としてグループホーム「カーサ岡の宮」開所
平成 18 年 3 月(2006)	サポートセンター「ほっと」移転
平成 18 年 10 月(2006)	障害者自立支援法に基づき各名称をサポートセンターゆめワーク・なかせ・いとうに変更
平成 20 年 4 月(2008)	サポートセンター「いとう」伊東市観光会館へ移転
平成 20 年 5 月(2008)	就労継続支援 B 型事業所「就労支援事業所かのん」開所
平成 21 年 4 月(2009)	小規模作業所「ワークショップまごころ」開所
平成 22 年 4 月(2010)	「ワークショップまごころ」就労継続支援 B 型事業所へ移行 従たる事業所「クリーム・ド・クオーレ」開所 サポートセンター「ほっと」移転
平成 23 年 4 月(2011)	サポートセンター「なかせ」三島分室開所
平成 24 年 4 月(2012)	「就労支援事業所かのん」事務所・作業所移転 通所授産施設「田方・ゆめワーク」就労継続支援 B 型事業所へ移行
平成 27 年 4 月(2015)	サポートセンター「なかせ」長泉分室を長泉町役場内に開所
平成 28 年 3 月(2016)	「コーポ狩野」新棟完成・移転、ケアホームコーポ狩野からグループホームコーポ狩野へ名称変更
平成 29 年 5 月(2017)	サポートセンター「いとう」熱海駅前の熱海第一ビルに移転
平成 30 年 4 月(2018)	サポートセンター「ほっと」富士市日乃出町へ移転 サポートセンター「なかせ」三島分室 2 階から 4 階へ移転 「ワークショップまごころ」同ビル 2 階に作業所増設
令和 元年 8 月(2019)	グループホームコーポ狩野サテライト（フルール）開所
令和 2 年 4 月(2020)	サポートセンター「なかせ」三島分室を組織改編、名称変更し、サポートセンター「ひまり」開所
令和 2 年 10 月(2020)	サポートセンター「なかせ」自立生活援助事業開始
令和 3 年 3 月(2021)	サポートセンター「なかせ」長泉分室閉所

2. 令和 3 年度のトピックス

指定一般相談支援（地域移行支援）の一元化

相談支援事業所サポートセンターなかせ・ひまり・いとう・ほっと・ゆめワークの 5 か所で実施している指定一般相談（地域移行支援）をサポートセンターなかせとして一元化

3. 事業所一覧

本部

沼津市中瀬町 17-11

〒410-0811 TEL055-931-7032

FAX055-934-1697



相談支援・地域活動支援センター

サポートセンター

なかせ 沼津市中瀬町 17-11

TEL055-935-5680

FAX055-935-6150

いとう 熱海市田原本町 9-1 熱海第一ビル 2F

TEL0557-82-5680

FAX0557-82-5681

ゆめワーク 伊豆の国市田京 1259-294

TEL0558-75-5600

FAX0558-75-5601

ほっと 富士市日乃出町 165-1 サンミック静岡ビル 104

TEL0545-32-8160

FAX0545-32-8165

ひまり 三島市一番町 7-19 高野ビル 4F

TEL055-991-1180

FAX055-991-1181

共同生活援助

グループホーム

カーサ岡の宮 沼津市岡宮 612-1

はまゆう寮 沼津市中瀬町 17-11

ふじみ・ふじみII 富士市厚原 1138-6 ムーンビームス

コーポ狩野 沼津市中瀬町 24-1

TEL055-933-1038

FAX055-933-3955

就労継続支援 B 型

かのん 沼津市中瀬町 19-20

TEL055-933-8500

FAX055-933-8501

(軽食・喫茶 花のん) 沼津市中瀬町 18-28

TEL055-933-8502

ワークショップまごころ 三島市字エビノ木 4745-456

TEL・FAX055-985-2666

(クリーム・ド・クオーレ/作業所) 三島市一番町 7-19 高野ビル 1F/2F

TEL・FAX055-976-9000

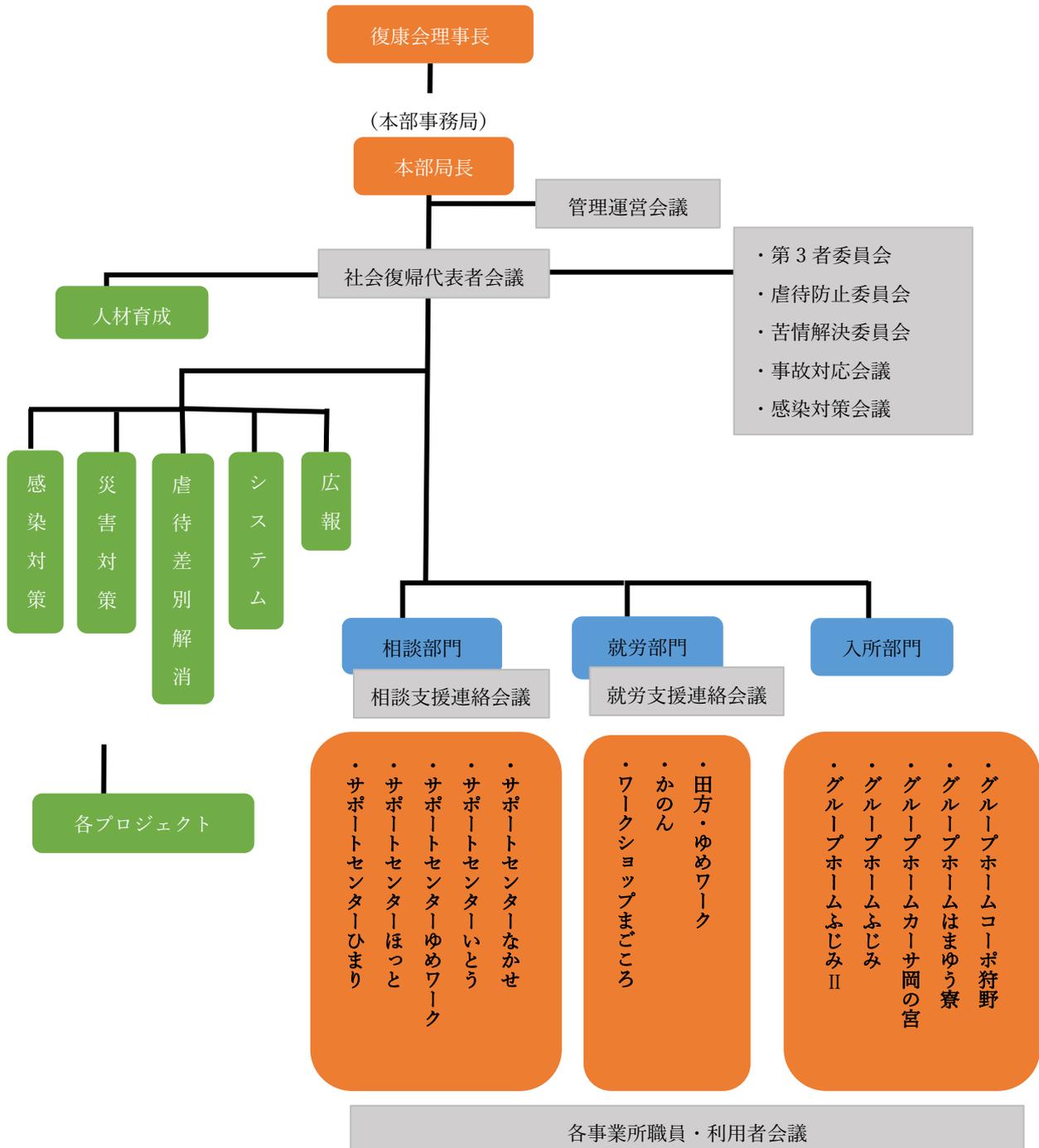
田方・ゆめワーク 伊豆の国市田京 1259-294

TEL0558-75-5600

FAX0558-75-5601

II 基本方針

1. 組織、会議



2. 職員状況

① 令和3年度入職者（他部署から事業部への移動も含）

正：3名

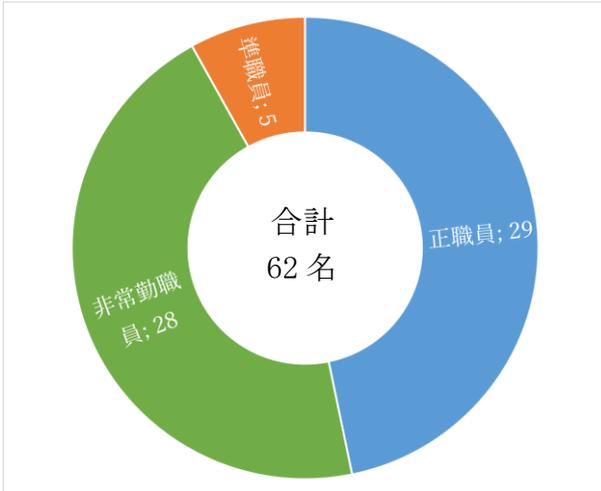
準・非：2名

② 令和3年度退職者（他部署へ異動も含）

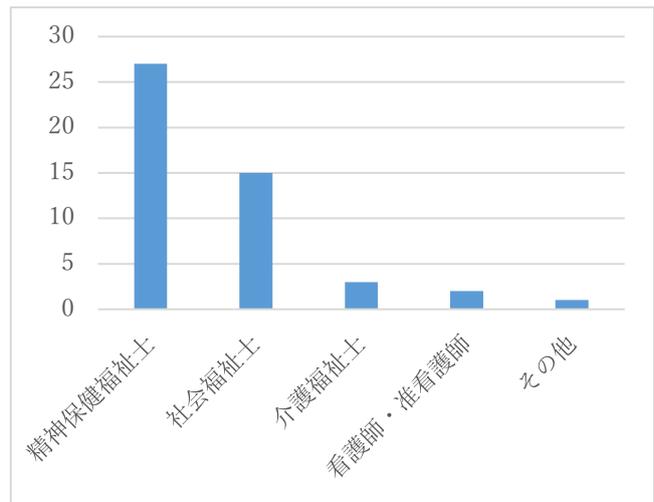
正：3名

準・非：4名

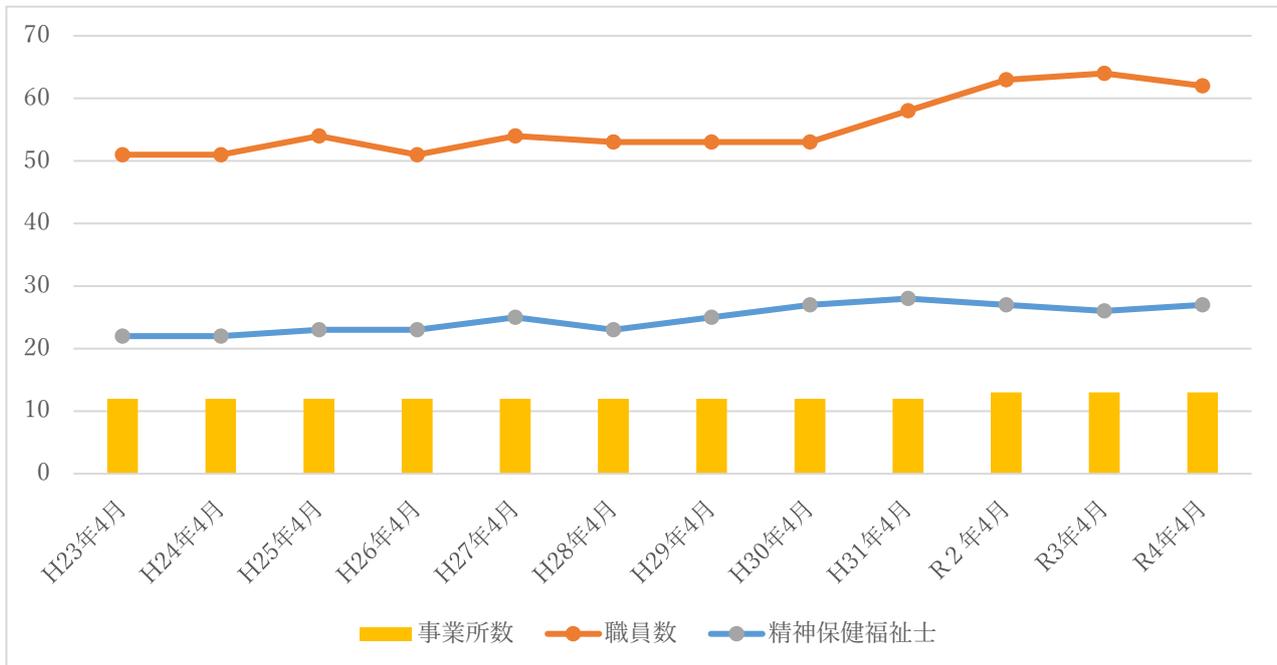
③ 正・準・非職員比



④ 有資格者（重複有）



⑤ 職員状況等経過



Ⅲ 運営報告

事業部職員人材育成

1. 事業部全体

令和3年度の目標達成度

運営方針

新型コロナウイルス感染拡大により日常の変化を余儀なくされた利用者の生活、事業所の運営から学び、新しい生活様式に対する支援の安定を図る。

また、限られた人材でより良いサービス提供を行うため、職員1人1人が利用者支援のチームとして役割を意識し、地域との協働に努める。

重点目標

- ①利用者の特性や希望を踏まえ、住み慣れた地域での生活が継続できるよう、総合的なサービスを提供
- ②障害福祉サービス等報酬改定に伴う各障害福祉サービス運営の見直しと適正化の検討
- ③職員のスキルアップと法人内外で活躍できる中核人材の育成

令和3年度も先の読めない状況が続いたが、各事業所の運営の継続は勿論、虐待防止や事例から支援を学ぶ研修等、小集団やリモートを使う等感染防止に対する工夫から効率的で分かりやすい職員研修を行う事が出来たり、医療機関との連携について専門職が横断的に取り組む実践を行ったりと、今の業務の中から工夫や広がりを見つけた結果、人材育成に成果のあった1年となった。

利用者支援についても特に入院から地域生活への移行支援は昨年度以上に他職種と協働して行う事が出来た。

ただ、地域には障害福祉サービスの資源が増加し、事業部内でも年々厳しい運営状況となっている事業所もある。中長期で目標を立て、先を見据えた事業展開を事業部全体として行っていきたい。



①職員研修

今年度も新型コロナウイルス感染予防のため、共通テーマに沿って事業所ごとに研修を行った。

第1回は秋に「虐待防止・権利擁護研修」を実施。県の虐待防止・権利擁護研修に参加した職員が作成した研修動画を使って、視聴と日ごろの関わりの中での疑問や悩みを話す場を持った。

第2回は2月に非常勤職員を中心に「精神疾患を抱える方の地域生活を支える仕組み」をテーマとした研修を実施。実際に田方・ゆめワークを利用中のメンバーさんに協力いただき、メンバーさんの生活の様子を映像で見ながら地域生活やそれを支える仕組みを学んだ。

更に今年度はコロナ感染防止対策として、沼津中央病院感染対策委員の研修動画等を活用し、環境・運営面で工夫出来た。何より感染拡大を防ぎたいという職員の意識が大きかった1年であった。

②目標管理シート作成

毎年事業部全体の重点目標⇒各事業所の事業目標⇒全職員の目標を年度初めに掲げ、年2回事業所管理者と面接を行いながら目標達成を意識して全職員が業務を行う事で、個々のやりがいやスキルアップにつなげている。

虐待、苦情件数、報告会等

毎年実施していた第三者委員との報告会も今年度はコロナ感染拡大により中止とした。

虐待報告はなかったが、苦情として5件受け付け虐待防止委員会で報告し内容の共有を行った。その他入所事業所での余暇活動に対する備品の設置等の要望も多かった。

熱海市土砂災害等

令和3年7月3日に起こった熱海市伊豆山土石流災害において、専門職団体を通じて事業部からも避難所での被災者支援に協力した。どの職員も我が事として被災者や亡くなった方々に思いを寄せ、地域の復興に今後も協力していきます。



ふくむすび（事業部広報誌）

事業部全体の広報誌（月1回）を発行。今年度も12回発行。

《トピックス》

～事業所紹介～

- 4月 就労支援事業所かのん
- 5月 サポートセンターいとう
- 6月 サポートセンターゆめワーク
- 7月 サポートセンターほっと
- 8月 ワークショップまごころ
- 9月 サポートセンターなかせ
- 10月 グループホームコーポ狩野
- 11月 サポートセンターひまり
- 12月 秋ふく祭り2021

～to be free～

令和4年

- 1月 新年あいさつ
- 2月 ピアサポーターからのメッセージ
- 3月 事業部職員研修
～精神疾患を抱える方の地域生活を支えるしくみ～

（委託事業）

駿東田方圏域スーパーバイザー事業

平成25年度より静岡県の委託を受け、駿東田方圏域（6市4町）の広域的課題の共有や、障害福祉サービスの総合的調整及び推進等に関して協議・検討する体制の整備を県と共に実施。令和3年度は例年課題となっていた地域（市町）と圏域の連動性を意識し、全体では各市町の中核人材による相談・推進部会で近隣市町の情報を共有するところから始めた。地域移行部会については、「にも包括」への取組をもとに県一圏域の活動が市町につながるきっかけ作りの研修を企画し、年度末にはピアサポーターの力も借りて見える化する事が出来た。就労ワーキングについても、ワークエントリーが軌道に乗っている事もあり、今年度末に発展的解散とし、次年度新たな就労に関する圏域課題を受け止める場を協議していく。



2. 各事業所活動報告

グループホーム コーポ狩野

1. 動向

新規入居者1名を迎えることが出来たが、グループホームとしての活動は前年度に続きコロナウイルスの感染状況に翻弄された年であった。感染防止のため最小限とした制限下でも利用者の心身の負担は大きく、強い不安から単独で外出できなくなり、時にルールを逸脱してトラブルに発展してしまう事もあった。今期は手術を伴う入院が複数発生し、その対応に迫られた。入院・手術に必要な同意、疎遠になっているご家族への連絡やコミュニケーション不足によるグループホームへの不信感の払拭等、少ないスタッフではあるが納得頂けるより良い方法を模索しながら援助業務を行った。前年度課題に感じた夜間の災害時については、利用者の協力による避難行動に期待するのは難しい事がわかり、互助・共助の限界を知る事になった。

2. 目標及び評価

1. 利用者の主体性や個別性を尊重し、希望が実現できるよう個々のスキルアップを図り支援に取り組む ○
2. 地域や関係機関に対し開かれたグループホームとして信頼関係を形成し、事業所の役割や機能の理解を促進する △
3. 感染症や災害への対策を徹底し、利用者スタッフ自身の健康と暮らしを守る △

- ・利用者の状況に合わせて適宜個別支援計画の変更を行い、達成目標や支援方法についてスタッフ間で共有した。心身の変化に柔軟に対応する事が出来なかった。
- ・コロナ禍において地域行事への参加が出来ず、充実した活動は行えなかった。関係機関等については利用者の状況を伝え、報告や相談をしながら支援に努めた。足を運び、互いの顔を見ながら連携を図るという点では不十分であった。
- ・刻々と変化する感染状況や対策に即時対応する事が難しかったが、利用者理解と協力を求めながら日々の感染防止に努めた。利用者、スタッフ共に一人の感染者も出すことなく引き続き対

策を講じていきたい。

3. 総括

平均年齢の変化は微増だが、身体疾患の罹患や受診が多い1年であった。転倒による骨折等、本人からの異変の訴えがあった時には、既に処置が必要となる事が増えた。安定した状況を保つことが出来た現在も注意深い観察と対応が必要になる。身体への関心が高まらない利用者自身に理解を図りながら必要な処置に対応出来るスキルの獲得はスタッフにとって喫緊な課題である。利用者自身が主体的に自分の人生をつくる土台づくりの大切さを再認識した年であった。今後も福祉サービスの提供が本人不在とならぬよう、支援を届けていきたい。

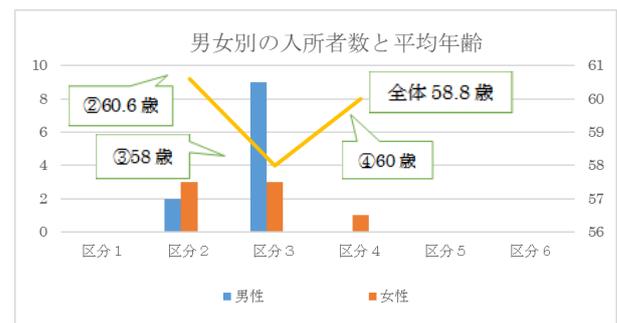
<職員配置> (令和3年4月1日付)

職 種	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	世 話 人
人 数	1	1	1	6
勤務形態	常/兼務	常/兼務	常/専従	常/非兼務/専従

<利用状況>

	R1年	R2年	R3年
定 員	20	20	20
利 用 者 数	16	17	18
入 所 者 数	1	1	1
退 所 者 数	2	0	0

<男女別の入所者数と平均年齢>



<入所期間>



(令和4年3月31日現在)

グループホーム はまゆう寮

1. 目標及び評価

1. 利用者の個別性に配慮し、関係機関との連携を密に図っていく ○
2. スタッフそれぞれの役割を整理し、常に情報共有ができる体制を整備する △
3. 感染や災害対策訓練を地域住民との協働も視野に実施する △

- ・ 個々の生活場面での状況について関係機関と共有し、個別性に配慮した支援を行った
- ・ 役割の確認をしながら、情報を共有できるよう努力した
- ・ 新型コロナウイルス感染防止対策は協議しながら実施できた。防災訓練は水消火器を使って火災を想定した訓練と津波を想定した避難訓練を実施した

<職員配置> (令和3年4月1日付)

職種	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	世話人
人数	1	1	1	6
勤務形態	常/兼務	常/兼務	常/兼務	常/非専従/兼務

2. 実績

今年度もウイルス感染拡大が止まらず、変異株の市中感染が疑われたこともあり、前年度の感染防止対策に加えて外出記録の記入をお願いして感染防止対策を徹底した。また、利用者全員の新型コロナワクチン3回接種の同行支援及び副反応の健康観察等、昨年度に引き続き感染予防を常に意識した支援を行った。

7月始めの大雨で土砂災害警戒レベル3が発令されたため、夜間ピット28へ避難した。翌朝に熱海伊豆山の土石流の大災害がテレビや新聞で報道され、被災者に思いを寄せながら早めの避難の必要性を利用者と共に確認した。線状降水帯の影響で2泊3日の避難生活となり、入浴機会の提供や買い物支援等を行った。

コロナ禍だったが今年度も地域の一斉清掃に参加し、地域の住民と協力しながら清掃する姿も見られた。



<利用状況>

	R1年	R2年	R3年
定員	9	9	9
利用者数	8	9	9
新規入所者数	1	1	0
退所者数	0	0	0

<男女別の入所者数と平均年齢>

	人数	平均年齢	
男性	5名	48.8歳	52歳
女性	4名	56歳	

<入所期間>

入所期間	人数
1年以内	0
1～3年未満	1名
3～5年未満	1名
5～8年未満	1名
8～10年未満	1名
10～15年未満	4名
15年以上	1名

(令和4年3月31日現在)

3. 総括

今年度は、高齢の利用者が複数の医療機関の受診することが多く、検査日の調整や受診同行を行い今後も継続が必要となる。また他の利用者も年齢が進むにつれて健康面の相談も増えてきた。対人関係の悩みにも寄り添いながら、食生活の助言や居室の清掃等、安全で安心な生活ができるよう支援が必要となる。単身生活を目指している利用者もいるため、今後も支援者間の方向性の確認や関係機関との連携を密にして一人一人の思いを大切にしたい支援をしていきたい。

グループホーム カーサ岡の宮

1. 目標及び評価

1. 利用者の個別性に配慮し、関係機関との連携を密に図っていく	○
2. スタッフそれぞれの役割を整理し、常に情報共有ができる体制を整備する	△
3. 感染や災害対策訓練を地域住民との協働も視野に実施する	△

- ・個々の生活場面での状況について関係機関と共有し、個別性に配慮した支援を行った
- ・細かな業務分担や日々の支援の共有が不十分であった
- ・コロナ禍により地域行事が中止され、地域協働での開催は出来なかった

<職員配置> (令和3年4月1日付)

職 種	管 理 者	サ ー ビ ス 管 理 責 任 者	生 活 支 援 員	世 話 人
人 数	1	1	1	3
勤 務 形 態	常/兼務	常/兼務	常/兼務	常/専従 /兼務

2. 実績

今年度は男性1名の新規入居と男性2名の退所があり、1名はアパートへ移行しステップアップとなったが、もう1名は急逝での退所と大変悲しい別れとなってしまった。年度末には1名の体験も開始したが、コロナ感染拡大の再来により中断となってしまった。コロナ感染予防に関しては、体温チェックや共有スペースでのマスク着用等、1年かけて習慣となってきている。

<利用状況>

	R1年	R2年	R3年
定 員	10	10	10
利 用 者 数	6	8	7
新 規 入 所 者 数	0	2	1
退 所 者 数	0	0	2

<男女別の入所者数と平均年齢>

	人 数	平 均 年 齢	
男 性	3名	56歳	64.7歳
女 性	4名	71.3歳	

<入所期間>

入 所 期 間	人 数
1年以内	1名
1～3年未満	1名
3～5年未満	0
5～8年未満	1名
8～10年未満	1名
10～15年未満	1名
15年以上	2名

(令和4年3月31日現在)

3. 総括

今年度もコロナ感染防止対策として、感染発生時の対応や利用者のワクチン接種対応に迫られる1年であった。また利用者へも集団での外食や外泊の自粛をお願いし、地域で暮らしていても集団生活であるという厳しさも味わった。また今年度は約12年生活されていた利用者が急逝された。温かな方で、新しく入った利用者へも声を掛けてくださったりと気配りもされるととても優しい方でした。感謝と共にご冥福をお祈りいたします。

グループホーム ふじみ・ふじみⅡ

1. 目標及び評価

個別支援計画に基づき、各利用者の健康面と環境面への支援を行う。 ○

<職員配置> (令和3年4月1日付)

職 種	管 理 者	サ ー ビ ス 管 理 責 任 者	世 話 人	看 護 師
人 数	1	2	3	1
勤 務 形 態	常/兼務	常/兼務	常/兼務	常/非 専従/兼務

2. 実績

今年度は1名の新規入居者、1名の退所があった。新型コロナウイルスの影響がありつつも、なるべく日常生活に支障が出ないように感染対策に気を付けながら支援を行った。しかし、一時外出の自粛など利用者にお問い合わせの得ないこともあったが、昨年度に比べると通所先が閉鎖されることもなかったため、定期的な外出や人とのかかわりが極端に少なくなることもなく生活を送ることができた。

<利用状況> (令和4年3月31日現在)

ふじみ

ふじみ	R1年	R2年	R3年
定 員	11	11	11
利 用 者 数	8	8	7
新 規 入 所 者 数	1	2	0
退 所 者 数	2	1	1

ふじみⅡ

ふじみⅡ	R1年	R2年	R3年
定 員	5	5	5
利 用 者 数	1	1	2
新 規 入 所 者 数	0	1	1
退 所 者 数	4	1	0

<平均年齢>

ふじみ	ふじみⅡ
59歳	45.5歳

<入所期間>

ふじみ・ふじみⅡ

	ふじみ	ふじみⅡ
入 所 期 間	人 数	人 数
1年未満	0	1名
1～3年	3名	1名
3～5年	1名	0
5～8年	0	0
8～10年	0	0
10～15年	2名	0
15年以上	1名	0

(令和4年3月31日現在)

3. 総括

前年度と同様であるが、利用者も持病を持つ方も多くなり、日頃からの健康管理の必要性を強く感じている。そのため、早目の受診を勧めたり、長く健康診断も受けていない人には受けるように促したりしているが、はじめは拒否されることが多い。拒否の理由としては、必要性を感じない、受診したことで悪い結果が判明するのではないかと、治療が辛いのではないかとという恐怖感、金銭問題などが挙げられた。話し合いで受診や健診に至った方もおり、必要に応じて受診同行なども行っている。

相談支援事業所

サポートセンターなかせ

1. 目標及び評価

1. 委託・特定・一般、それぞれの位置づけ・役割を理解し、丁寧な個別支援を継続する	△
2. ピアスタッフとの協働を視野に入れた制度理解をし、常にコスト意識をもつ	△
3. 基幹相談支援センター・自立支援協議会等、地域の動きを意識し主体的に参画していく	△

<職員配置> (令和3年4月1日付)

職種	管理者	相談支援 専門員・サ ビ管	相談員・支 援員	ピアス タッフ
人数	1	4	4	2
勤務 形態	常勤/兼務	常/専従・ 兼務	常/非 兼務	非/兼務

2. 実績

(1) 相談支援

平成24年度に計画相談が本格導入されて以降、同関連業務に充てる時間の割合が高くなっているのは下図支援方法における訪問支援が来所相談と逆の推移となっていることがその影響の表れであり、相談支援事業所全体の動きとしても年々変化している。その中で本来相談支援の基礎の位置づけである市町からの委託相談について、現状の人員・役割等の観点から見直し整理する必要性があった。年度が替わった早い段階から市町担当者と調整を重ね、上記のような変化に合わせた形で機能する体制整備を図ることにより、求められるニーズに対してより迅速に対応することを意識した。

(2) 自立支援協議会

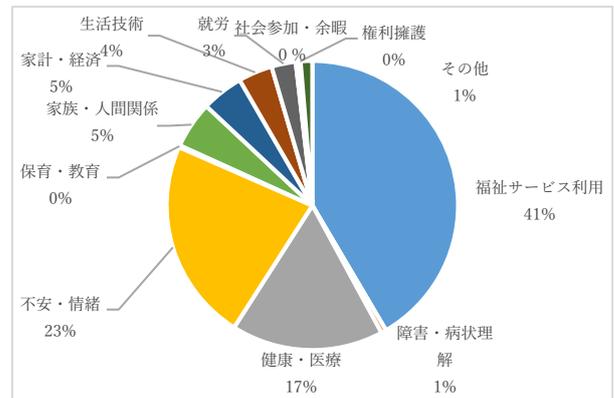
県・圏域・市町単位の自立支援協議会各部会（相談支援・地域移行支援）に参画した。コロナ禍における会議運営が求められる中で例年のような具体的な活動が出来たとは言い難く、次年度以降に繰り越す課題も多くなってしまった。その中で沼津市相談支援部会については、同市の基幹相談支援センターが設置されることに関連した活動を通して、同センターの体制整備に寄与できるよう具体化していきたい。また、県地域移行支援部会ピアワ

ーキングでは報酬改定に伴う体制加算に関連する内容も含め、引き続き広い視野をもって先を越した取り組みを心掛けていきたい。

<支援方法>

年度	訪問	来所	同行	電話	メール	個別 支援 会議	関係 機関	その他	合計
R1	762	266	60	1562	23	125	2377	39	5214
R2	855	280	66	2093	15	89	2792	2	6192
R3	836	137	82	1688	17	90	2733	2	5585

<相談内容内訳>



3. 総括

相談支援事業所のおかれている現状は、法制度の変化の影響もあり上記の通り様々な事業・活動が混在し煩雑化している印象となっている。しかし上記3点の目標についてもそれぞれ関連するものであり、いかに複数の取り組みを連動した形で具体化しその過程を事業所内職員全体で共有できるかが重要となる。その中で令和1年7月に正式雇用となったピアスタッフについては、業務内容として普及啓発的な活動から当初の目的であった個別支援への関わりに移行していけるか模索した1年でもあった。これについても上記計画相談・地域移行支援と深く関わる。今後もしかなる状況においてもベースとなる目の前の利用者に対する個別支援に主体的・積極的に取り組めるよう、引き続き事業所としての体制整備、更には関係機関とも連携した地域づくりに発展的につなげていきたい。

相談支援事業所

サポートセンターいとう

1. 目標及び評価

1. 報酬改定に伴い相談支援事業の更なる充実と質の高い相談支援が展開できるよう努める	○
2. 新しい生活様式を意識しながら、地域活動支援センターを通して仲間（ピア）づくり、生活の学びの機会を提供し社会とのつながりが持てるよう関わる	○
3. 職員同士のコミュニケーションを図り、それぞれの役割や強みを意識しながら日々の支援に活かす	○

<職員配置> (令和3年4月1日付)

職 種	管 理 者	相談支援専門員	生活支援員
人 数	1	2	3
勤務形態	常/兼務	常/専従	常/非 専従

2. 実績

(1) 相談支援・地域活動支援センター

今年度も伊東市・熱海市より障害者総合支援法に基づく「相談支援事業」「地域活動支援センター事業」の委託を受け事業を行っている。新型コロナウイルスの緊急事態宣言中は地域活動支援センターを午前、午後に分け密を避けるため事前予約、人数制限にて対応する。福祉サービスを利用する際に必要となるサービス等利用計画（計画相談支援）は今年度も新規利用希望の方も含め一定の状態を維持し、約120件担当する。また、具体的なサービス事業所が決まっていない場合は委託相談にて事業所の情報提供、見学同行など丁寧に支援することを心掛けた。今後とも障害のある方の思いに寄り添いながら事業を展開できればと考える。

(2) 自立支援協議会

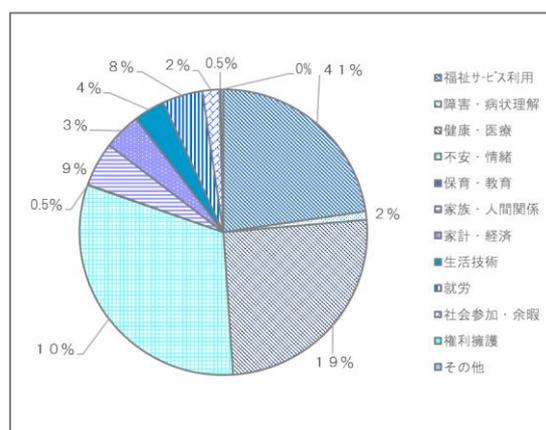
今年度も精神障害部会、地域移行部会の部会長、発達障害ワーキングの担当として協議会に所属。新型コロナウイルスの影響もあり参集しての検討は控え、オンラインにて開催する。また、昨年7月に熱海市にて土砂災害が発生し、被害にあった事業所

に対する支援を部会で検討、実行させてもらう。課題はあるがそれを形にしていく難しさを感じながらも、来年度も一つ一つ地域課題の共有や取り組みを行ってけると良いと考える。

<支援内容内訳>

年 度	訪 問	来 所	同 行	電 話	メー ル	個 別 支 援 会 議	関 係 機 関	そ の 他	合 計
R 1	831	1036	137	3345	16	71	2841	6	8283
R 2	815	824	106	3656	44	40	3219	2	8706
R 3	702	673	93	3848	35	69	2646	3	8069

<相談内容内訳> 件数 (※重複あり)



3. 総括

今年度も新型コロナウイルスの感染防止のため地域活動支援センター事業、相談支援事業共に影響があった1年だったと考える。多くの方は先が見えない不安を感じ、もどかしさを抱えているものと考え。障害のある方もよりその思いを抱きながら暮らしていることを改めて認識したい。また、今年度支援に携わる中で精神障害に限らずメンタルヘルスに関連する相談依頼もあり、地域で求められている精神障害の範囲が広がっているように感じる。対応するにも行政機関や他分野の機関からの協力は不可欠であると感じると同時に、地域の資源やニーズ等積極的にアンテナを張り巡らせ把握するよう努めたい。

相談支援事業所

サポートセンターほっと

1. 目標及び評価

- | | |
|--|---|
| 1. 潜在的な問題を抱えたケースへの緊急時に備えた支援の充実のため多機関との連携を含めた支援の再構築 | ◎ |
| 2. 圏域自立支援協議会への参加。精神科医療機関との連携強化を行い、地域移行の促進を図る | ◎ |
| 3. 事業所内外での定期的なケース検討や地域事業所間での勉強会を通し、個別相談支援のスキルアップを目指す | ○ |

<職員配置> (令和3年4月1日付)

職 種	管 理 者	相 談 支 援 専 門 員
人 数	1	4
勤 務 形 態	常/兼務	常/専従・兼務

2. 実績

(1) 相談支援

昨年度に引き続き富士市から委託を受けている「相談支援事業」を行った。「計画相談支援」も継続して行っている。

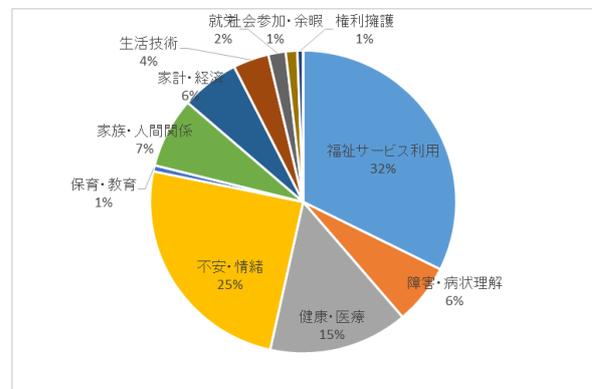
(2) 自立支援協議会

富士圏域の自立支援協議会に参加。余暇・ピア WG のメンバーとして当事者と緊急時対応についてのフローチャートを完成させた。富士市の自立支援協議会に参加。就労部会部会長、こども部会部会員、触法虞犯少年 WG のメンバー、事務局として携わる。

<支援内容内訳>

年 度	訪 問	来 所	同 行	電 話	メー ル	個 別 支 援 会 議	関 係 機 関	そ の 他	合 計
R1	365	46	78	1278	0	103	1525	7	3402
R2	157	38	42	1296	1	86	1187	1	2808
R3	415	56	67	1628	3	409	1487	0	4065

<相談内容内訳>



3. 総括

前年度に引き続き、基本相談・計画相談・地域相談支援を実施。また富士圏域と富士市の自立支援協議会にも参加した。新型コロナウイルスの影響で、自立支援協議会の活動や相談支援への影響は少なからずあるが、感染症対策の実施や ICT 活用することで、なるべく活動や支援が滞らないように工夫を重ねた一年であった。計画相談では、家族環境の急な変化により生活環境が激変せざるを得ず、緊急介入をすることが必要になったケースが複数あった。近年そのような事態が増えており、今年度目標にも掲げた支援の再構築を行うことにより、スムーズに支援が行うことができたと考える。

相談支援事業所

サポートセンターひまり

1. 目標及び評価

1. 利用者との温かい関係を築き、本人の強みに着目し、主体的に生活できることを支援する	◎
2. 三島市基幹相談支援センターの官民共同体制への主体的な参画	◎
3. 事業所内外での定期的なケース検討や地域事業所間での勉強会を通し、個別相談支援のスキルアップを目指す	○

＜職員配置＞（令和3年4月1日付）

職 種	管 理 者	相 談 支 援 専 門 員
人 数	1	4
勤 務 形 態	常/兼務	常/専従

2. 実績

(1) 相談支援

前年度と同様、社会状況から来所や訪問、同行の対応が難しく、制限せざるを得ない時期でもあった。しかし、電話やオンラインを使用した対応に切り替え、可能な限り当事者や家族の不安軽減、負担を掛けない支援を継続することを心掛けた。相談内容は、当事者や家族からの就労、居宅介護利用希望が多かった。就労に関しては、発達障害を抱える若年者の対応が際立った印象を受けた。また、児童や高齢分野の関係機関との連携も継続している。家族全体をチームで支援するケースもあり、他分野の動きを知る機会にもなった一方、分野を超えての連携の難しさも感じており、今後の課題と考える。

(2) 自立支援協議会

三島市障がいとくらしを支える協議会の運営委員として引き続き参加。今年度は運営委員の中に設置された課題分析委員のリーダーとして普段の相談支援で感じている課題や、連携会議であがってきた課題について取り組みを深め新たなチーム設置や既存のチームへの取り組み内容の提案を行った。

(3) 基幹

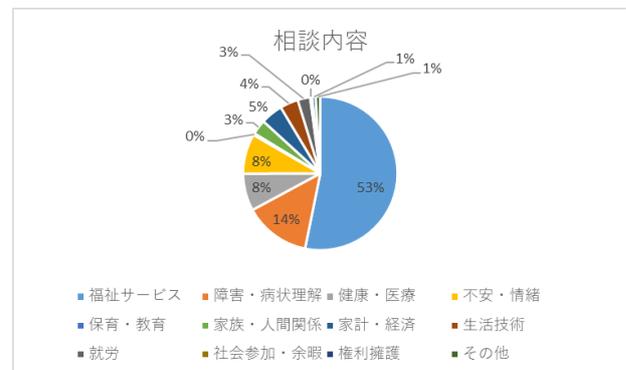
今年度は三島市基幹相談支援センターの官民共

同体制開始となり、他相談支援事業所3カ所と共に困難ケースの検討や連携会議の運営、三島市内の相談支援体制強化について取り組んできた。

＜支援方法＞

年度	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
R1	680	185	90	654	7	139	1523	4	3282
R2	691	149	72	705	9	80	1717	6	3429
R3	648	132	62	494	27	121	1422	10	2916

＜相談内容内訳＞



3. 総括

今年度は職員の変更が続き、年度初めは利用者に対して安心してもらうための新たな関係作りに努めた。同時に基幹相談支援センターが始動し、市役所に赴く機会も増えたため、他相談支援事業所や市との情報共有や連携が円滑に行われるようになってきた。基幹相談支援センターでは、市役所窓口相談に来られた方や市からの依頼による対応が主となっているが、次第に直接基幹相談支援センターへ相談に来られる方も増えてきているように感じる。また計画相談として関わっているケースでは、児童・高齢など分野を超えての連携が必要となるケースも多く、他分野との連携や家族全体をチームで支援していくことの難しさを改めて感じるがあった。来年度は地域全体で支援できる体制作りを、ケースを通し、又自立支援協議会などの中心的役割を積極的に担いながら、相談支援専門員としての質の向上も図っていききたい。

相談支援事業所

サポートセンターゆめワーク

1. 目標及び評価

- | |
|---|
| <p>1. 当事者のニーズを汲み取り計画相談に反映させ、個別支援の充実を図るとともに、地域課題としての意識を持った取り組みができるよう個々のスキルアップを目指す ○</p> <p>2. ピアサポーターとの協働を意識しながら、各医療機関と連携し、地域移行支援に取り組む ○</p> |
|---|

<職員配置> (令和3年4月1日付)

職 種	管 理 者	相談支援専門員	生 活 支 援 員
人 数	1	2	4
勤 務 形 態	常/兼務	常/専従	常/非 専従

2. 実績

(1) 相談支援

センターへの相談は電話やコロナ禍のため感染症対策には十分配慮しながら来所・訪問・サテライト相談会等を通して対応した。計画相談は引き続き伊豆の国市、伊豆市の福祉サービス利用者に対して行い、対象者も110名超と年々増加しており、より関係機関との連携を密にしつつ、適正な調整能力が求められる。地域移行支援では年度を通じて5名の支援に関わり、医療機関と適宜連携し退院の支援を行った。内、1件は関連法人のピアサポーターと協働しての支援に当たることができた。本年度は地域移行支援に力を入れる事ができたと思われる。コロナ禍ではあるが、各関係機関それぞれで対応を工夫しながら、当事者の退院に向けて前向きに動いていく事ができたと感じる。

(2) 自立支援協議会

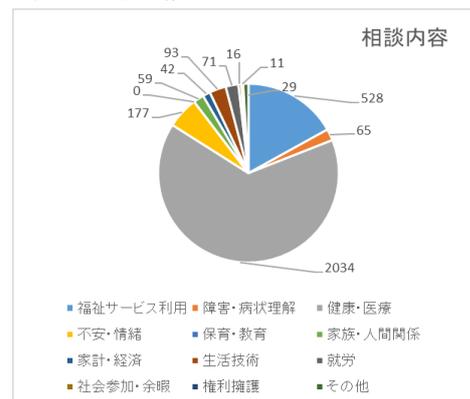
伊豆の国市、伊豆市のそれぞれの自立支援協議会の運営に携わり、地域における障害者支援、啓発活動に貢献した。本年度は伊豆の国市では運営協議委員、精神包括ケアシステム部会長、地域生活拠点の検討に協力した。伊豆市でも同様に副会

長、就労部会、地域生活拠点ワーキンググループのメンバーとして関わり、当事者が地域での生活をどのような形で安心して継続できるかを検討している。コロナ禍の中でも活動するために、オンラインの活用等の工夫によって継続して実施できている。

<支援内容内訳>

年 度	訪 問	来 所	同 行	電 話	メー ル	個 別 支 援 会 議	関 係 機 関	そ の 他	合 計
R1	797	1079	114	1424	0	274	2352	84	6124
R2	783	595	100	1226	1	184	1746	32	4667
R3	550	299	48	1278	7	75	1223	11	3491

<相談内容内訳>



3. 総括

計画相談の依頼件数は年々増加傾向にあり、相談支援専門員2名をそれぞれ市担当にすることで効率化を図り対応している。また、自立支援協議会を通じ、地域の事業所の方々と連携を図りながら支援体制の強化を行った。コロナ禍にて自立支援協議会の活動や訪問相談、会議等が中止になる事もあるが、感染症対策をしたり zoom 等で対応の工夫をする事で実施できた。地域移行支援についてはピアスタッフを交えて取り組む事が出来ているが、引き続きコロナ禍の中でご本人が安心できる退院支援をどのように進めていくかは各医療機関や関係者とも相談しながら対応していく。

就労継続支援B型支援事業

就労支援事業所 田方・ゆめワーク



1. 目標及び評価

- | | |
|--|---|
| 1. 職員全員が収支への意識を持ち、具体的にコスト削減に取り組み、安定した工賃支給を目指す | △ |
| 2. パン部門の作業工程を細分化し、より多くの利用者が作業参加することで、利用者が遣り甲斐と責任を持って取り組めるよう体制を築く | ○ |

昨年から引き続き新型コロナウイルスの影響を受け、最盛期に比べ厳しい状況が続いている。しかし、少しずつではあるが外部からの受注作業も回復傾向にあり、パンの出張型販売も可能な範囲で再開。また、スタッフミーティングにおいて職員全体で授産収益について検討を重ねたことで、全員がコスト意識を持つようになった。また、パン部門の作業工程をより細分化したことで、多くの利用者が作業に参加しやすくなった。状況に応じて体制変更をしたが、利用者の多くからは好意的な反応が得られている。

〈 職員配置 〉 (令和3年4月1日付)

職 種	人 数
管理者・サービス管理責任者	1名
生活支援員	1名
職業指導員	3名
目標工賃達成指導員	2名
事務員	1名

〈 作業内容 〉

- ①軽作業
箱折、タオルたたみ、梱包作業など
- ②パン製造・販売
- ③館内トイレ清掃、建物周辺の外掃除
- ④施設外就労 (中伊豆ワイナリー除草作業)



2. 実績

年度	H29	H30	R1	R2	R3
利用実人数 (人)	31	33	25	27	26
年間開所日数 (日)	261	253	247	240	240
一日の平均利用者数 (人)	15.4	17.1	14.0	15.4	11.9
平均工賃月額 (円) () 内は年間最高額	8,738 (44,213)	10,017 (51,525)	7,903 (44,550)	10,018 (36,113)	8,388 (30,938)
一般就労移行者数 (人)	0	1	1	1	0
(就職先業種)		老人施設 介護職員	ホームセンター園芸職員	公園清掃員	

3. 総括

今年度も新型コロナによる影響を受け、授産収益も伸び悩み、一日平均利用者数も年間11名程度と減少傾向にある。近隣に同様の就労系事業所が増え飽和状態になっている為、新規利用者の増加は厳しい状況だが、行政や特別支援学校等とも連携しながら地道に利用者確保に努めたい。また、一番の目的は精神障害者の生活支援であることを忘れず、一人一人の利用者に寄り添った支援に取り組むたい。

就労継続支援B型支援事業

就労支援事業所 かのん



1. 目標及び評価

1. 関係機関や企業と連携し、一般就労への支援と職場定着支援を強化する	○
2. 職員のスキル向上を目指し、職場内研修の実施と外部研修への参加を増やす	○
3. 利用者・事業所がさらに地域に根差した活動の出来る体制を作る	△

今年度は新規利用者が12名と多く、定着率も高かった。契約終了者は5名、その内2名が一般就労、1名が就労移行支援への移行による終了となっており、職員・利用者共に就職への意識も高まっている。今年も外部研修の参加機会は少なかったが、常勤職員はオンラインでの参加に取り組み、全職員のスキル向上のため、事業所内でも毎月のスタッフミーティングの中で毎月テーマを決め研修を実施した。

コロナ禍が続く中、各作業部門工夫しながら、安心して作業が出来る環境も整いつつある。軽食喫茶花のんは、昨年から開始した弁当製造・販売を今後も継続していくことを決定。地域に常連のお客様も増えてきたため、今後さらに作業を通じて地域の方々と交流出来る場を作っていきたい。



〈 職員配置 〉

職 種	人 数
管理者・サービス管理責任者	1名
生活支援員	1名
職業指導員	7名
目標工賃達成指導員	1名

〈 作業内容 〉

- ①内職作業
箱折、組立て、縫製、自主製品製作など
- ②喫茶作業
コーヒーショップ やすらぎ、軽食喫茶花のん営業
- ③施設外就労
沼津中央病院清掃・ライフケアセンターよつば清掃

2. 実績

年度	H29	H30	R 1	R2	R3
利用実人数(人)	64	68	58	55	58
年間開所日数(日)	278	279	277	278	278
一日の平均利用者数(人)	22.5	20.1	21.5	20.8	21.1
平均工賃月額(円)	6,719	6,606	7,009	6,823	7,734
()内は年間最高額	(31,460)	(32,873)	(33,880)	(25,610)	(24,622)
一般就労移行者数(人)	3	6	0	2	2
(就職先業種)	高齢者施設 製造・農業	IT・清掃・小売 高齢者施設・ 小売・製造		農業 製造	医療 教育

3. 総括

利用者が増えていく中で、支援の質を落とさず、感染対策をしながら安全に、さらに安定的な作業を提供することは、年間通じて大きな課題であった。各職員が常に情報共有を行い、利用者のことを第一に考えながら活動することの重要性を改めて感じ、次年度はさらにそれらを強化していきたい。



就労継続支援B型支援事業

ワークショップまごころ



1. 目標及び評価

- | | |
|--|---|
| 1. 利用者一人一人の能力や特性を理解し、作業を通して生きがいを感じていただけるよう支援する | ○ |
| 2. 工賃アップを目指し、クオールにおける対面販売以外の販路拡大を進める | ◎ |

この2年で3名の新入職員があり、また支援経験のある職員についても改めて個々の能力や特性を理解することを念頭に、職員間で情報交換をしながら個別性を重視した支援に努めた。クオールにおいては商工会議所によるオンライン販売と県のオンライン販売促進事業にエントリーし、ノウハウを身に付けることが出来た。令和4年度もオンライン販売継続により売上向上を目指す。

〈 職員配置 〉

職 種	人 数
管理者・サービス管理責任者	1名
生活支援員	1名
職業指導員	5名
目標工賃達成指導員	1名
事務員	0名

〈 作業内容 〉

- | |
|----------------------------|
| ① 軽作業
箱折、みかんネット加工、チラシ組み |
| ② ぷりん・ジェラートの製造・販売 |
| ③ 古紙回収 |
| ④ 農作業 |



2. 実績

年度	H29	H30	R 1	R 2	R 3
利用実人数 (人)	37	37	38	33	32
年間開所日数 (日)	308	293	290	285	292
一日の平均利用者数 (人)	15.1	15.8	16.3	12.2	12.8
平均工賃月額 (円)	6,570	7,669	7,485	7,069	6,885
() 内は年間最高額	(16,050)	(19,560)	(19,560)	(20,340)	(22,200)
一般就労移行者数 (人)	3	1	4	1	0
(就職先業種)	老人介護 施設清掃 食品製造	部品製造	食品製造 事務 ビル清掃 食品製造販売	商品陳列	

3. 総括



新型コロナウイルス感染拡大により通所中止を余儀なくされた他法人グループホーム入所中の4名は再開の目途がたっておらず、大幅収益減は継続している。徐々に新規利用希望者は増えており、「送迎をしてもらえるところ」「スイーツ製造をしているところ」とのニーズがあり、当事業所の特色を活かしている。体験利用中の方もいるため、令和4年度の安定利用につなげ経営改善を目指す。

地域活動支援センター事業

サポートセンターゆめワーク

1. 目標及び評価

- | | |
|---|---|
| 1. コロナ禍において、新しい生活様式が求められる中、感染防止に努めつつ、憩いの場の機能が果たせるよう創意工夫する | ○ |
| 2. ピア活動やボランティアとの活動を通じて、地域啓発に努める | △ |
| 3. 利用者さんが楽しめ、充実した一日を過ごすよう積極的に関わっていく | △ |

〈プログラム内容〉

趣味・創作活動、ラジオ体操、ウォーキング、料理教室、買い物ツアー、エコキャップ清掃、映画鑑賞
季節行事（お花見、納涼会）、健康講話、防災訓練、
地域交流活動、福祉村清掃 など

2. 実績

年度	H29	H30	R 1	R 2	R 3
利用実人数	71	69	61	31	29
年間開所日数	246	238	238	241	240
一日の平均利用者数	12.5	11.6	9.6	4.6	4.8

3. 総括

今年度も新型コロナウイルス感染防止に努めながら開所。飲食などは控えつつも可能な限り工夫して季節行事など実施。一日の平均利用者は以前に比べ減少したが、個別に交流できる時間も増えた。今後も当事者主体の活動を目指し、ピアスタッフの協力を得ながら取り組んでいきたい。



地域活動支援センター事業

サポートセンターいとう

1. 目標及び評価

- | | |
|--|---|
| 新しい生活様式を意識しながら、地域活動支援センターを通して仲間（ピア）づくり、生活の学びの機会を提供し社会とのつながりが持てるよう関わる | △ |
|--|---|

〈プログラム内容〉

趣味・創作活動（塗り絵、タブレットでゲーム、YouTube で動画閲覧、カードゲーム、新聞・読書）
スポーツ（ウォーキング、卓球）、地域交流活動（ピアスタッフとの交流）、DVD鑑賞
季節行事（初詣、花見）

2. 実績 ※サテライト伊東（月2回実施）

年度	H29	H30	R 1	R 1	R 3
利用実人数	103	99	76	74	69
年間開所日数	241	241	235	226	221
一日の平均利用者数	9.6	9.8	10.5	7.8	8.0

3. 総括

今年度も新型コロナウイルスの感染防止の観点でプログラム内容の検討を行う。利用実人数が減少傾向から各々の余暇活動が充実していることで前向きに捉えるか、課題として捉えるか検証が必要。また、ピアスタッフの月一勤務やピア連絡会にて病気や薬のこと、日々の生活について仲間同士で語り合うことで共感し合えるため、今後とも「仲間活動」の場を支援しピアの輪を広げていきたい。

IV 地域貢献活動

(1) 精神保健相談

事業所別	回数	内容	担当	主催又は後援
ポータルセンターゆめワーク	年 6 回	伊豆市サテライト相談会	池田 友美	伊豆市
ポータルセンターなかせ	年 12 回	沼津市障害者専門相談会	内藤 治子	沼津市社会福祉協議会

(2) 講演開催状況

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
6月1日	オンライン	当事者の体験談と相談支援事業所の活動報告	鈴木 伸二 石川 淳展 山崎 将	静岡県精神保健福祉センター
11月12日	オンライン	1. 駿東田方圏域における地域移行支援個別給付サービスの事例報告 2. 市町における精神障害にも対応した包括ケアシステムの取組について	1. 鈴木 伸二 2. 牛島 聖美	駿東田方圏域自立支援協議会 地域移行部会
11月17日	伊豆市生涯学習センター	伊東市成年後見制度市民後見人養成講座	秋津 崇史	伊東市社会福祉協議会
1月以降配信	YouTube 配信	家族と本人を支える社会資源と福祉制度について	伊藤 田 恵子	静岡県東部健康福祉センター
2月22日	道の駅 開国下田 みなと会議室	ピアサポートにおける研修	石川 淳展 山崎 将	賀茂障害者就業・生活支援センター
2月22日	下田総合庁舎	賀茂地区障害者自立支援協議会地域移行部会 精神保健福祉業務実務研修会	鈴木 伸二 石川 淳展 山崎 将	賀茂地区障害者自立支援協議会
3月1日	静岡県庁東館研修室 (オンライン配信)	精神障害者地域移行定着推進研修	鈴木 伸二	県自立支援協議会地域移行部会

(3) 公的機関の医療・福祉活動への協力

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
熱海市障害支援区分等判定審査会	審査委員	熱海市	鈴木 伸二
伊豆市・伊豆の国市障害支援区分等判定審査会	審査委員	伊豆市・伊豆の国市	青木 大輔
伊豆の国市障害支援区分認定調査	調査員	伊豆の国市	池田 友美 小山 千菜 室山 美希
沼津市障害者支援区分認定調査	調査員	沼津市	内藤 治子
伊豆の国市地域自立支援協議会	協議委員・運営委員	伊豆の国市	青木 大輔
伊豆の国市地域自立支援協議会精神包括ケアシステム部会	部会長	伊豆の国市	小山 千菜
伊豆市地域自立支援協議会	副会長	伊豆市	青木 大輔
富士市障害者自立支援協議会就労部会	部会長	富士市	田尻 ゆき
伊東市障害支援区分判定等審査会	審査委員	伊東市	鈴木 伸二
熱海・伊東地区自立支援協議会精神障害部会	部会長	熱海市・伊東市	秋津 崇史
熱海・伊東圏域自立支援協議会地域移行部会	部会長	熱海市・伊東市 熱海健康福祉センター	秋津 崇史

清水町障害支援区分認定審査会	審査委員	清水町	勝又美智子
沼津市障害者自立支援協議会	副会長	沼津市	牛島聖美
沼津市障害者自立支援協議会 相談部	部会長	沼津市	鈴木伸二
裾野市障害支援区分判定審査会	審査委員	裾野市	杉山智子
駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会	部会長	東部保健所	鈴木伸二

(4) 実習受託

区分	委託施設・機関等	実習担当
就労支援事業所かのん	御殿場看護学校	杉山 智子
就労支援事業所かのん	静岡医療センター附属静岡看護学校	杉山 智子
ワークショップまごころ	静岡福祉大学 社会福祉学部医療福祉学科	勝又 美智子
ワークショップまごころ	順天堂大学 保健看護学部	勝又 美智子

(5) 大学・看護学校への講師派遣

区分	施設名	講師
田方・ゆめワーク サポートセンターなかせ	沼津市立看護専門学校	青木 大輔 山下 圭美

(6) 受託事業

所属	受託事業名	担当者
社会復帰事業部	静岡県圏域スーパーバイザー設置事業	牛島 聖美

(7) その他（熱海市土石流災害への支援協力）

活動内容	機関名	担当者
「(被災者への) 今後の生活再建におけるニーズ・状況把握」に係るヒアリング	熱海市災害ボランティアセンター	秋津 崇史 石田 由貴 牛島 聖美
「熱海市土石流災害に係るメンタルケア」相談員	一般社団法人静岡県精神保健福祉協会	鈴木 伸二 杉山 智子 伊藤 田恵子 秋津 崇史 牛島 聖美

V 教育研修

業務管理及び研修出張

年月日	内 容	氏 名
R3. 5. 27, 6. 1	精神保健福祉業務基礎研修会	森田暁
R3. 6. 10	令和3年度障害児・者相談支援事業全国連絡協議会コーディネーター研修会	長谷川真美 伊藤田恵子 山田典子 池田友美 上柳光
R3. 10. 20	安全運転管理者講習	青木大輔
R3. 7. 22, 23, 9. 7, 11. 4. 5	相談支援従事者初任者研修	渡邊 修宏
R3. 10. 18	令和3年度障害児・者福祉サービス事業者説明会（集団指導）	勝又美智子 青木大輔 杉山智子 秋津崇史
R3. 10. 27	令和3年度相談支援従事者現任研修	勝又美智子 水野恵
R3. 11. 6	自然災害（熱海市）・現場の声から学ぶCSWの視点	秋津崇史
R3. 11. 16	高次脳機能障害者支援従事者研修及び支援ネットワーク研修	伊藤悠美子
R3. 11. 19	青年・成人期の知的障害を伴わない発達障害の相談・支援 基礎編	秋津崇史
R3. 11. 20	熱海市土砂災害 被災者支援社会福祉士会の実践とこれからの考える	石田由貴
R3. 11～12	サービス管理責任者等実践研修	古賀理恵
R3. 12. 2	令和3年度静岡県介護支援専門員及び難病患者等ホームヘルパー養成研修	武井紗知 小山千菜美
R3. 12. 21	食品衛生責任者衛生管理講習会	杉山智子
R4. 1. 19	令和3年度サービス管理責任者等更新研修	勝又美智子
R4. 1. 20	令和3年度サービス管理責任者等更新研修	鈴木伸二
R4. 1. 27	令和3年度サービス管理責任者等更新研修	秋津崇史
R4. 1. 31	障害者虐待防止・権利擁護研修	大嶽哲也
R4. 2. 1	障害者虐待防止・権利擁護研修	新田怜小
R4. 2. 5	令和3年度サービス管理責任者等更新研修	伊藤田恵子
R4. 3. 1	精神障害者地域移行定着推進研修	秋津崇史 石川淳 山崎将展
R4. 3. 18	静岡県自立支援協議会地域移行部会	秋津崇史
R4. 3. 13. 20	ピアサポート専門員養成研修	山崎将展

VI 令和4年度 事業計画

1. 事業部全体

運営方針（事業部）

誰もが自分らしく暮らす事の出来る地域共生社会の実現を目指します

そのために障害者、特に精神障害について専門的見地からのかかわりを通して人・資源・地域を繋ぎ、利用者に寄り添う支援を行う事で地域共創に努めます

また、地域や利用者の状況に合わせた事業運営と、先を見据えた事業展開を全職員と共にデザインする事でチーム意識ややりがいを持てるように、組織の強化に取り組みます

重点目標

- ①利用者の特性や希望を踏まえ、住み慣れた地域での生活が継続できるよう、つながり、支え合い、寄り添うサービスを提供
- ②「当たり前」の業務を見直し、利用者・職員と共に必要なサービス・事業を再編
- ③災害等の緊急時に備えた事業所間の連携の強化
- ④人材確保のためのリクルート体制整備

(1) 相談支援・地域活動支援センター事業

- ①目の前の個別ケースから地域の課題意識を持った関わりを行い、利用者が希望する生活を支援するため制度や社会資源等を活用、コーディネートする意識を持つ
- ②各市町単位の動向を意識し各相談支援専門員が積極的・主体的に自立支援協議会等へ参画すると同時に、ピアサポーターとの協働、啓発を意識し行政や事業所等にも協議会の場や地域移行等を活用しながら働きかける
- ③法人内の相談支援事業所間の連携を図り、地域の実情や災害等の状況に柔軟に対応できるよう相談支援体制の構築を目指す。同時に個々の相談支援専門員のスキルアップを図る等人材育成の視点を持つ
- ④地域活動支援センターにおいては、地域の

状況や特徴、利用者のニーズ等踏まえ事業を展開し、憩いの場及び仲間づくりの場などの機能が果たせるよう創意工夫し、ピア活動やボランティア育成にもより力を入れ努める

(2) 共同生活援助事業（グループホーム）

- ①主体性や個別性を大事にし、関係者や関係機関との連携を強化して、利用者の希望実現を目指し応援・援助する。コロナ禍で外出泊等も含めて制限をせざる得ない部分もあるが、創意工夫し、地域移行を推進する
- ②共同生活援助事業に期待されている役割や期待に応えられるよう、現状のサービス提供内容にとらわれず、求められるニーズにも対応できるように職員のスキル向上を図る。
- ③地域活動に参加しながら精神障害や精神保健福祉に対する理解を深め、正しい知識を持っていただけるよう働きかける。
- ④事業運営が安定して継続できるよう、社会動向を敏感に察知しながら具体的な方法を探求する。

(3) 就労支援事業（B型）

- ①新規利用者の確保に努め、且つ利用者が安定して利用継続できるように個別の特性に応じた支援体制を築く。
- ②職員は研修参加や事業所内での勉強会を通じて自己研鑽に励み、障害や就労支援の理解を深めるとともに、虐待防止に努める。
- ③自立支援協議会等、地域活動に積極的に参画し、障害者雇用に関する普及啓発及び理解ある一般企業の開拓に取り組む。
- ④地域・関係機関と連携しながら、日々の感染対策や防災訓練を見直し、強化することで利用者・職員が安心して作業の行える環境を整える。

2. 各事業所 事業目標

【共同生活援助】

グループホーム コーポ狩野

- ①利用者の主体性や個別性を尊重し、夢実現の障害に対応できるスキルを身につけて支援に取り組む
- ②地域や関係機関から信頼を得られるよう、地域資源の一員としての役割を發揮する
- ③感染症や災害に対する必要な対策を講じて利用者とスタッフの命・暮らしを守る

グループホーム はまゆう寮・カーサ岡の宮

- ①利用者の個別性に配慮し、個々に合わせた支援を行う
- ②スタッフそれぞれの役割を基本に、積極的に支援の業務を見つけ実行する
- ③地域住民と協働した感染や災害対策訓練を実施する

ふじみ・ふじみⅡ

- ①利用者の希望実現を目指し、応援・援助をする
- ②感染症予防対策を確実に行う

【相談支援事業

・地域活動支援センター】

サポートセンターなかせ

- ①丁寧な個別支援と、先々を見越した視点に立った適切な関係機関との役割分担・連携の両立を図り、より効果的な相談支援の形を目指す
- ②諸制度・生活様式等の変化に対して周囲から求められる役割・機能を把握・理解し、より柔軟な思考をもって事業所内の業務内容を見直し整理をする
- ③個人としてのスキルアップを法人・事業所に主体的に循環していくことを意識する
- ④個別支援と並行して自立支援協議会等大局的な視点に立った取り組みに積極的に参画していく

サポートセンターいとう

- ①当事者への丁寧な関わりを大事に住み慣れた地域の暮らしを支援するために出来ることを

考え行動する

- ②ピア主体の活動を念頭に地域活動支援センターの活動内容について柔軟な視点と取り組みをしながら都度検討していく
- ③スタッフ間のコミュニケーションを大事に個別ケースから障害理解と対応の学びを深める

サポートセンターほっと

- ①状況に応じた支援を提供できるように、本人、家族、他機関と現状と支援方針を共有する機会を積極的に設ける
- ②地域移行支援を活用し、退院までのプロセスを病院と協働していける体制を構築する
- ③自立支援協議会への積極的な参加

サポートセンターひまり

- ①利用者とあたたかい関係を築き、本人の強みに着目しながら、他機関と連携し主体的に生活できることを支援する
- ②三島市基幹相談センターへ主体的に参画し、事業所内での役割分担を行い効率化を図る
- ③地域生活拠点事業の開始を踏まえて、支援の見直しや関係機関との連携の強化に努める
- ④ケース支援や事業所間での関わりを通し、支援者間のつながりを深めていく

サポートセンターゆめワーク

(相談支援事業)

- ①当事者のニーズを汲み取り計画相談に反映させ、個別支援の充実を図るとともに、相談員個々のスキルアップに努める
- ②ピアサポーターと協働し、当事者の思いに寄り添い、当事者が地域で安心した生活ができるよう、地域移行支援に取り組む

(地域活動支援センター事業)

- ①ピア活動やボランティアとの活動を通じて、精神保健福祉の地域啓発に努める
- ②利用者さんが楽しめ、充実した一日を過ごせるようプログラムを工夫し、積極的に関わっていく
- ③台風、地震、様々な感染症など災害及び緊急時に対応できるよう日頃から危機意識を持ち、定期的な訓練を行う

【就労継続支援B型】

田方・ゆめワーク

- ①利用者一人一人の特性を理解し、利用者が楽しく前向きに作業に取り組めるような雰囲気や環境を作る
- ②全職員が収支や工賃アップへの意識を高め、常により良い作業環境を提供できるよう努める

かのん

- ①工賃向上と利用者への充実した作業提供を目指す
- ②感染対策や防災訓練などの各種計画やマニュアルの確認と周知の徹底

ワークショップまごころ

- ①利用者1人1人の能力や特性を理解し、支援の視点を共有しながらサービスを提供する
- ②事業所内の各部門の業務状況を把握し、相互に協力し合いながら生産活動を進める